



2020年3月2日

各 位

三重県保険医協会

運動の取り組みについて

1月30日、保団連中央要請行動、また衆議院第2議員会館で「第5回歯科技工問題を考える国会内集会」（「保険で良い歯科医療を」全国連絡会主催）が開催された。三重協会から鶴飼・梅村各副会長が参加した。

三重連絡会が加盟する「保険で良い歯科医療を」全国連絡会は、1月30日（木）衆議院第2議員会館で「第5回歯科技工問題を考える国会内集会」を開催した。全国から歯科医師、医師、歯科技工士など230人が参加した。また与野党合わせて35人の国会議員が参加し挨拶。特に与党国会議員の参加がかつてなく多く、歯科技工士、金パラ、歯科の低診療報酬など歯科医療の危機に対する認識が徐々に広がってきたことや今回初めて歯科技工士学校関係者が参加し、運動の輪が広がってきたことを実感できた集会だった。

基調報告に立った同連絡会の雨松真希人会長は、材料費の高騰や技工料が低く抑えられていることに触れ、技工士の3人に1人が過労死ラインを上回る週80時間以上の労働、過半数が年収300万円以下の低賃金だと指摘。会場からは、「このままでは保険の義歯や冠をつくる技工士がいなくなる」「若い人たちは海外に出ていく」など歯科医療危機を訴えるフロア発言が続いた。

当会からは、梅村三重協会副会長、私、鶴飼三重連絡会会長と小田事務局員の3人が参加し、岡田克也氏（衆・三重3区）、本村伸子氏（衆・比例東海）と懇談し、金パラや歯科技工士問題の解決に向けてのいくつかの提案を要請した。

※三重県保険医協会は、医療従事者と患者・国民の皆さんでつくる「保険でより良い歯科医療を」三重連絡会に加盟し、保険でより良い歯科医療の充実を目指しています。

（「保険でより良い歯科医療を」三重連絡会会長・鶴飼伸）

以 上